オーディオ実験室収載

ThorensTD124 の導入(11)
－アナログ再生系の比較試聴－

１． 始めに

前報(10)までに ThorensTD124 について一応の検討が終わりましたので、その他のアナログ再生系との比較試聴を行います。

２．ThorensTD124 の試聴方法

前報(10)までの検討および Garrad401 の再構成の検討を踏まえて、アナログ再生系の比較試聴を行います。対象となる 3 システムの最新の状態は下記のとおりです。

ThorenTD124

ThorensTD124 の導入(10)

TD124→MySonic Stage1030→Maranz7 タイッププリ→TruPhase

なお、電源タップの位置を見直し、ThorenTD124 の電源を前報(1)で述べた中村製作所のアイソレーション電源トランスで中継することをやめ、電源タップのタップリベラメンテから直接取るようにしました。

カートリッジは SPU Synergy、アームは RMG212 、トランスは MySonic Stage1030、フォノステージは若松通商 Maranz7 タイッププリのフォノ入力段です。

LINN LP-12

LINN LP-12 の再構成(32)

LP-12→ZANDEN Model 120(バランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは MySonic Signature Gold、アームは Glanz MH-9Bt、トランスは ZANDEN Model120 の内蔵トランスで、フォノステージは ZANDEN Model120 へのバランス入力です。

Grrad401

Garrad401 の再構成(15)

Garrad401→ZANDEN Model120(アンバランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは ZYX R100-EX、アームは FR-64S、トランスは ZANDEN Model120 の内蔵トランスで、フォノステージは ZANDEN Model120 へのアンバランス入力です。

試聴音源は、前報(2)と同様、聴きなれた下記を使用しました。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929

J.S.Bach　Sonatas & Partitas
Nathan Milstein
ドイツグラモフォン MG9551
三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）
ゲザ・アンダ（ピアノ）
LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）
リヒヤルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲
ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
Angel AA-9117・C
ヘンデル　メサイア
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

３．ThorensTD124 の試聴結果

上記のとおり、比較する 3 システムはプレイヤーだけでなく、カートリッジ、アーム、トランス、フォノイコライザーがまちまちですので、プレイヤーだけの比較とはならず、システム構成機器こみの比較となります。
また、ThorenTD124 の場合は、イコライザーカーブは RIAA の固定で位相反転もありませんが、LINN LP-12 と Grrad401 の場合、ZANDEN Model 120 において Sonatas & Partitas と選帝侯のソナタは TELDEC カーブの逆相、ワルキューレは DECCA カーブの逆相、メサイアは EMI カーブの逆相に設定しています。
こういった条件の違いを踏まえて、ThorenTD124 の場合、Sonatas & Partitas は、艶のある Milstein のヴァイオリンが聴け、ボウイングの細かい動きも聴き取れます。
選帝侯のソナタは、おだやかで響きの豊かなベートーヴェンのソナタです。
ワルキューレは、定位が若干甘くなりますが、一定程度の解像度は確保され、ワーグナーらしい迫力は感じられます。
メサイアは、ソプラノやバスの伸び伸びとした歌唱が聴かれ、合唱の分離も適度にあって、以前の SPU Synergy の豪快ではあるが、デリカシーに欠けるところが払拭されています。
なお、試みに、前報(10)と同様にフォノ入力を若松通商 Maranz7 タイププリのフォノ入力から ZANDEN Model 120 のアンバランス入力に替えてみますと、LINN LP-12 の再生に近づきます。
LINN LP-12 の場合、Sonatas & Partitas は、Milstein のヴァイオリンは艶を残しながら、切れ込みがよくスリリングなボウイングを聴かせます。
選帝侯のソナタは、打鍵の強さと響きの良さがバランスしています、
ワルキューレは、定位がしっかりしており、個々のソリストの声やオーケストラのパートの質感も十分です。

メサイアは、もっとも合唱の分離がよく、ソプラノのヴィブラートや弦のボウイングの様もリアルです。
Grrad401 の場合、Sonatas & Partitas は、艶のある Milstein のヴァイオリンが聴け、ボウイングの様もくっきりとリアルになっています。
選帝侯のソナタは、打鍵の鋭さはそれほどでもありませんが、マイルドで穏やかなベートーヴェンのソナタです。
ワルキューレは、解像度はさほどよくはありませんが、押出がよく迫力があります。
メサイアは、ソプラノやバスの歌唱は力強く、伸び伸びと歌っていますが、合唱の分離は甘いところがあります。

4．まとめ

比較した上記 3 システムはプレイヤーだけでなく、システム構成機器こみの比較となっていますが、もっとも価格構成が高価で機器構成の新しい LINN LP-12 に対し、ThorenTD124 や Grrad401 も健闘していると言えます。
LINN LP-12 では、軸受けのカルーセルへのグレードアップ、電源の外出しなどの改造の他、カートリッジもアームもフォノイコライザーの最新の機種です。これらの結果を受けて、もっとも解像度がよく、スリリングな再生ぶりです。
ThorenTD124 では、プレイヤーのポテンシアルとアームとカートリッジの相性の良さ、トランスのパーフォーマンスの高さがあります。フォノイコライザーはキット製品ですが、真空管式の特徴が出てきます。これらの結果を受けて、場合によっては、SPU とは思えないほどの細かい表情を見せ、管球式特有の穏やかで艶やかな音を聴かせてくれます。
Grrad401 では、プレイヤーもアームも時代物で、カートリッジも普及品クラスでありますが、LINN LP-12 と同じフォノイコライザーを使用しているメリットがあります。これらの結果を受けて、盤毎の特性を活かし、音の分離が十分でないところもありますが、力強く、伸び伸びとした再生ぶりを示すところもあります。

以上